

「部落解放への想いをこめて」 各地区解放文化祭

11月に各地区で解放文化祭が行われ、日頃のサークル活動の発表や展示、地区進出学習会の成果発表、バザー等を行いました。3地区で約1200名の方に来場していただきました。

【名和地区・11月5日】

「第26回名和地区解放文化祭」は、人権交流センターで行われました。

オープニングの庄内保育所園児の元気な踊りで始まり、庄内地区の方のバザーの協力など、地域をあげてのイベントになりました。また、学習会の成果発表では、子どもたちの解放に向けた発表に、多くの来場者が感銘を受けていました。

【中山地区・11月12、13日】

「第24回中山ふれあい文化祭」は、中山ふれあいセンターで行われました。

昨年から名称を変更して2回目となる今回は、小中学校からの発表のあと、貝塚市人権協会から北出新司さんをお



▲たくさんの来場者でにぎわいました (大山地区)

招きして、「命をいただき命は生きる」と題して講演が行われました。

【大山地区・11月20日】

第15回中高ふれあい祭りは、中高ふれあい文化センターと周辺施設で行われました。

午前中は大山きやらぼく保育園園児の演技と小中学生の人権クイズや研究発表がありました。また、バザーの出店や中学生が着ぐるみにふんして登場するなど盛り上げに役かかっていました。午後からは春雨や落雷さんの「お達者落語会」。江戸古典落語の披露といきいき医学講話があり、会場内は落雷さんの話術に魅了されました。

まちのたから (22) 文化財室通信

「門脇家住宅」の巻

新年あけましておめでとうございます。本年も「まちのたから」をご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、平成29年の最初は所子集落にある門脇家住宅を紹介いたします。

門脇家(通称・本門脇家)は、美濃国の土豪が近世初頭に帰農して所子村に土着したと伝えられています。17世紀後半ごろ、本右衛門秀盛の代に現在地に居を構えました。

18世紀前半には数十町歩の田畑を所有する経済力と社会的信望を得るまでに成長し、1757(宝暦7)年に三代の本右衛門が伯耆国汗入郡西

構の大庄屋に任じられて以後、代々大庄屋を勤めました。1769(明和6)年に建てられた主屋は茅葺寄棟造りで桁行が22・2メートル、梁間16・5メートルを測り(桁行は、桁がかかる方向、または桁を支える両端の柱の中心から中心までの距離を意味し

ます。一般的には棟と平行する建物の長手方向をいいます。梁間は、桁行と直交する梁の通る方向のことで、一般的には建物の短手方向をいいます)、太い梁を縦横に高く組み上げた構えが豪壮です。客間近くの湯殿、雪隠、茶室は庭園と調和して大庄屋の風格を偲ばせています。

主屋は昭和

49年に重要文化財に指定され、平成5年

には2棟の蔵(米蔵・新蔵)と水車小屋も追加指定されました。山陰

地方を代表とする大型民家といえるでしょう。

現在では、門脇家住宅保存協力会による春季と秋季に一般公開が



▲門脇家住宅主屋